

## 道南杉のまちで ものづくり体験を!

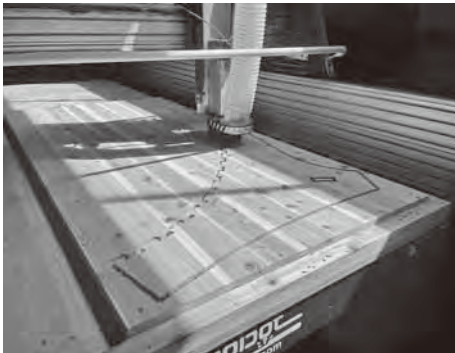


小川 航輝 (おがわ こうき)

フランス、レンヌ生まれ。芝浦工業大学、同大学院にて建築設計を専攻。卒業後は札幌の工務店にて住宅の設計に従事し、2023年2月より森町の地域おこし協力隊に就任。町産材PR、木育、木工体験施設「iroMori」の運営を行っている。

### 【協力隊に応募したきっかけ】

私は前職で札幌にて建築の設計をする傍ら、ShopBotというデジタルデータによる木材加工機の運用管理をしていました。ShopBotは手加工が難しい曲線や3D加工を得意としていて、ものづくりの幅を大きく広げるポテンシャルを秘めていると思っています。そのShopBotという機械を、先に導入していた会社が北海道の森町にあったというのが、協力隊へ応募する大きなきっかけでした。最初は、他の会社ではどのようにShopBotを運用されているのかという興味から森町へ足を運んだのですが、何度か訪問するうちに森町に住んでいる方々や豊かな環境に惚れ込み、木材が豊富なこの場所でShopBotを使って地域の方々がものづくりを自由に行える場所を作りたいと思い、協力隊に応募しました。



ShopBot

### 【地域おこし協力隊としての活動】

森町役場の農林課に所属し、町産材のPRや木育、そしてまちの林業の活性化を目的としてオープンした木工施設「iroMori」の運営管理をメインとして活動しています。

町産材のPRとしては木製のカヌーづくりに挑戦しています。現在カヌーを木製で制作している方はほとんどいらっしゃらない中、たまたま森町でカヌーづくりを趣味でやっておられる方と出会い、その方に弟子入りして制作をしています。町産材である道南杉は非常に軽量で加工がし易いため、カヌーの材料に適しており、町産材のPRにもってこいだと感じています。函館が近いということもあり、森町は瞬間通過型の観光地となってしまう、旅館業が廃れ、滞在時間も短くなってしまっているという現状があります。カヌーのような制作に時間のかかるものや、体験を絡められるコンテンツを観光に組み込むことで、少しでも滞在型の観光の足がかりになればと模索しています。



カヌーづくり

また、木工施設「iroMori」では町民の方々が作りたいものへの実現に手助けを行っています。施設内には通常の木工機器の他、レーザーカッターも導入しているのでオリジナルのロゴをギターに印字したり、漁師さんと協力して、出荷する魚につけるタグを道南杉で制作したりしています。タグのデザインも漁師さんと何度も打ち合わせを重ねて制作し、実際に出荷した魚は今までよりも単価を上げることができ、ブランディングとして成功を収めることができました。



魚タグ

## 【森町の魅力】

私が実際に住んでみて感じる森町の魅力は大きく3つあります。

まず1つ目は、駒ヶ岳をはじめとした豊かな自然環境です。函館や森町がある渡島半島のシンボルともいえる「駒ヶ岳」。かつては富士山のようなきれいな円錐形をしており、多くの歌人がその美しい姿を歌に詠んでいましたが、1640年の大噴火で山頂が崩壊し、その後も何度かの噴火を経て、現在の象徴的な二股の姿へととなりました。私も含めて、駒ヶ岳の風景に大きな魅力を感じて移住をされた方はとても多いと伺っています。

そして2つ目が、一次産業のバリエーションの豊富さです。海や山林に囲まれ、そして活火山である駒ヶ岳がある関係で漁業、農業、林業など、一次産業が豊富であることが森町の大きな特徴だと思います。有名なものとホタテやタコですが、火山灰地を生かしたかぼちゃや地熱を利用したトマト、豊富な木材を利用した木炭製造などさまざまな産業があり、年中おいしいものを食べられるというのが魅力的です。

最後に3つ目ですが、若者が挑戦することに対して応援してくれる方が多いということです。森町には大学が存在しないため、20代の人口が少ないという現状があります。そんな中、私のような外部から来た20代に対して、我が子のように優しく接してくれる方が多い印象です。また、外部の大学との連携も多いため、さまざまな大学の生徒さんが授業やインターンで森町へ訪れ、実習や研究を行ってまっています。住民でなくてもこのように外部の学生さんたちが、定期的に町民の方々と接することは、さまざまな化学変化を起こすとても良いきっかけとなっています。新天地において挑戦する環境として、このようなサポートや取り組みがあることはとても魅力的でした。

## 【やりがい】

町民の方々と何かを共創できたときにやりがいをとても感じます。前章で紹介させていただいた魚のタグ制作は、私一人の力では達成することができず、町民の方とタグを組むことではじめてチャレンジすることができ、また結果に対して喜びを分かち合うことができます。

また、別の例をあげると森町の農家さんととうもろこしの収穫祭イベントを企画する機会がありました。



とうもろこしの収穫体験イベント

とうもろこしは、一つの株に二つから三つの実を实らせるのですが、スーパーなどに出荷されるととうもろこしは、株の中で一番上に実らせたものに限り、その他の実は、粒が詰まっていないことやサイズが小さいなどの理由から、ほとんどが廃棄処分されている現状がありました。味としては全く問題のないとうもろこしが捨てられてしまう現状を打開するために、道南地域にお住まいの親子向けに収穫体験イベントを開催しました。こちら農家さんと協力することで、たくさんのご家族にご参加いただくとともに、森町のとうもろこしのおいしさを町民の方のみならず、道南地域の方々に周知することができました。

このようなさまざまな業種の方々と協力をして、新しい試みに挑戦するということは、企業に勤めていた際には経験ができなかったことなのでとてもやりがいを感じて取り組んでおります。

## 【将来の展望】

森町は先にも書いたように、瞬間通過型の観光地となっている現状があります。これを打開するためにはなにか一つを解決すれば良いわけではなく、複合的に施策を考えていく必要があると感じています。泊まる場所がないという理由で旅館やゲストハウスを始めても、泊まってでもやりたいコンテンツがなければ意味がありません。滞在型観光に向けたカヌーづくりをはじめとしたものづくりコンテンツや、地域おこし協力隊の活動をする中で交流を深めた一次産業者の方々との連携の下、森町が泊まって楽しい場所となるようにしていきたいと思っています。また、その中で前職の建築の知見を生かして地域の居場所づくりや宿事業を手掛けられたらと考えています。